

哲学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

哲学専攻は、西洋及び日本の哲学・思想史に関して、原典を読解し、一層高度な研究を遂行するための能力を涵養するとともに、この分野の研究と教育において先端的で創造的な活動を自立的に展開する能力と、その基礎となる一層高度な学識を身につけた人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（哲学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 西洋と東洋の哲学・思想史のうち、特定分野についてさらなる専門知識を修得し、研究に必要となる一層高度な原典読解能力を身につけている。

（思考・判断・表現）

2. 哲学・思想史の様々な課題に関して、さらに充実した専門的な知見を活用して明晰な思考ができる。
3. その過程や結果を論文・レポート・プレゼンテーションなどを通して報告し、効果的に表現できる。

（関心・意欲・態度）

4. 自ら研究課題を設定し、関連課題や先行研究なども視野に入れつつ、当該研究課題を深化させ、かつ着実に追究できる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. さらに高度な研究に必要となる原典読解能力を身につけるため、「哲学演習」「思想史演習」を配置する。（知識・技能）
2. 一層高度な研究の発想と実施に必要となる関心・意欲を身につけるため、「哲学特殊研究」「哲学史特殊研究」「思想史特殊研究」を配置する。（関心・意欲・態度）

3. 学生が博士論文の作成について必要な知識や表現力を修得できるように、「博士論文指導」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現)
4. 一層高度な知識、関心、思考力を身につけるため、必要に応じて他大学院研究科や各種学会とも連携して、研究発表や研究論文執筆へ向けた指導を適切な仕方を実施する。(知識・技能／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、一層幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、博士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

哲学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 志望する研究分野を学ぶために必要な基礎知識、及び研究遂行、とくに博士論文作成に必要となる一層高度な語学力・原典読解力・テキスト分析能力を身につけている。

(思考・判断・表現)

2. 自らの観点を自覚し、その観点から問題を論理的に考え、提示された答に含まれる前提・推論・帰結を的確に表現し、それらを効果的に伝達できる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に研究課題を設定し、それを持続的かつ徹底的に究明する意欲と態度を持っている。

4. 研究課題の遂行のために必要となる他の関連問題に関して知識を得て、研究課題への関心を深化させることができる。

以 上